

化学専攻

人材養成および教育研究上の目的

化学専攻においては、理学研究科の理念のもとに、化学に関する深い学識を授け、専攻分野における研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力や技術を通して社会の発展と福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。博士課程前期では、講義、セミナー、実験、ティーチングアシスタントなどを通して、幅広い基礎学力、研究・教育手法、実践的英語力を修得し、その専門性を活かして社会で活躍できる人材の養成を図る。博士課程後期では、広い視野に立って自ら問題を発見・解決し、その成果を学術論文として発表する能力を有する人材の養成を図る。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本専攻では化学の探究を通して、化学に関する学識・論理性や研究能力を身に付けた研究者や職業人を養成することを目的とする。

博士課程前期では、一般入学試験において、一定水準以上の基礎学力と化学の諸現象に興味を持ち、問題解決に向けて積極的に取り組む人材を大学・学部・学科を問わず幅広く受け入れる。成績が特に優秀な学部学生には3年次での飛び級制度があり、また成績優秀で意欲と適性のある4年次生には推薦入学制度を設けている。また、社会人入学制度あるいは外国人留学入学制度においては、基礎学力があり研究活動に意欲のある社会人あるいは外国人を受け入れる。

博士課程後期では、修士論文の内容の精査、英語試験、面接審査等によって、研究を遂行するための能力の有無を見極め、かつ問題解決に向けて積極的に取り組む姿勢を評価する。また、化学現象の解明に興味を持ち、新しい考え方で研究を意欲的に遂行できる社会人や外国人留学生も受け入れる。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

博士課程前期では、「特論」・「集中講義」・「実験」の授業科目を通じて化学分野に関する幅広い基礎知識・先端的な知識・実験手法を修得できるようなカリキュラム編成をしている。また、「講究」では輪読・論文抄読等の少人数教育を通じて、専門知識を修得するとともに研究能力や自己表現力を涵養する。最終年度末には、2年間の学習・研究成果の集大成として修士論文を提出させている。

博士課程後期では、前期課程の教育・研究をさらに深化・発展させ、自ら問題を発見・





解決できる高度な研究能力を有する人材の養成を図る。このため、学位取得に向けた自主的な研究推進と指導教員のもとでのゼミナールを重視し、加えて自然科学に関する深い学識を身につけることができるよう、専門的な特修科目を設置している。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

博士課程前期では、修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、修士論文を提出させ、公開の修士論文発表会で発表させる。広い視野に立って深い学識を修め、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業に必要な能力を有するか否かを判断する。

博士課程後期では、博士（理学）の学位取得には修了に必要な授業科目の単位取得に加えて、博士論文を提出し、査読付き学術誌に一定基準数以上の論文が掲載されていることを基本要件としている。研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行い得る能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力・技術を有しているか否かを判断する。

